

# 小牧第一病院 2025プラン

平成31年1月 策定

【小牧第一病院の基本情報】

医療機関名：

小牧第一病院

開設主体：

医療法人

所在地：

愛知県小牧市中央五丁目39番地

許可病床数：

(病床の種別)

一般病床110床、療養病床60床

(病床機能別)

急性期病床110床、慢性期病床60床

稼働病床数：

(病床の種別)

一般病床110床、療養病床60床

(病床機能別)

急性期病床110床、慢性期病床60床

診療科目：

内科、外科、胃腸科、整形外科、呼吸器科、神経内科、循環器科  
皮膚泌尿器科、麻酔科、リハビリテーション科

職員数：

- ・ 医師 50名
- ・ 看護職員 98名
- ・ 専門職 31名
- ・ 事務職員 21名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(人口の見通し)

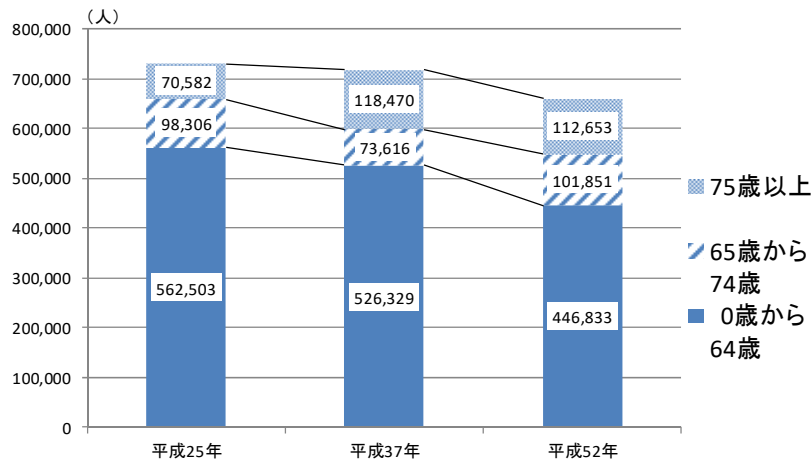
- 総人口は、県全体とほぼ同様の推移で減少していきます。65歳以上人口は増加し、増加率は県全体より低くなっていますが、75歳以上人口は平成37年(2025年)に向け大きく増加し、その後、平成52年(2040年)に向けて減少傾向に転じます。

<人口の推移>

※ ( ) は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
尾張北部	731,391 (1.00)	718,415 (0.98)	661,337 (0.90)	168,888 (1.00)	192,086 (1.14)	214,504 (1.27)	70,582 (1.00)	118,470 (1.68)	112,653 (1.60)

<尾張北部構想区域>



(医療資源等の状況)

- 人口10万対の病院数は、県平均の70.5%と少なくなっていますが、有床診療所数は149.1%と非常に多くなっています。また、人口10万対の病院の病床数は県平均の86.8%ですが、有床診療所の病床数は県平均の154.0%になっています。人口10万対の医療従事者については、医師数が県平均の75.8%と少なくなっていますが、他は概ね9割程度になっています。
- DPC調査結果(DPC調査参加施設:5病院)によると、構想区域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があることから、区域内に急性期入院機能を有していると考えられます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。
- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、構想区域内(5病院)において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料(ICU)・新生児特定集中治療室管理料(NICU)・ハイケアユニット入院医療管理料(HCU)新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)の届出がされています。

- 平成 25 年度(2013 年度)NDB データに基づく特定入院料の自域依存率は高い状況にあります  
が、新生児特定集中治療室管理料 (NICU) 及び総合周産期特定集中治療室管理料 (MFICU) は  
名古屋医療圏に患者が流出しています。

<医療資源等の状況>

区 分	愛知県①	尾張北部②	②/①
病院数	325	23	—
人口10万対	4.4	3.1	70.5%
診療所数	5,259	466	—
有床診療所	408	60	—
人口10万対	5.5	8.2	149.1%
歯科診療所数	3,707	339	—
人口10万対	49.9	46.4	93.0%
病院病床数	67,579	5,772	—
人口10万対	908.9	789.2	86.8%
一般病床数	40,437	3,409	—
人口10万対	543.9	466.1	85.7%
療養病床数	13,806	1,203	—
人口10万対	185.7	164.5	88.6%
精神病床数	13,010	1,154	—
人口10万対	175.0	157.8	90.2%
有床診療所病床数	4,801	728	—
人口10万対	64.6	99.5	154.0%

区 分	愛知県①	尾張北部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	1,098	—
人口10万対	197.9	150.1	75.8%
病床100床対	20.3	16.9	83.3%
医療施設従事歯科医師数	5,410	488	—
人口10万対	72.8	66.7	91.6%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	925	—
人口10万対	141.6	126.5	89.3%
病院従事看護師数	36,145	3,092	—
人口10万対	486.1	422.8	87.0%
病床100床対	49.9	47.6	95.4%
特定機能病院	4	0	—
救命救急センター数	22	3	—
面積 (km <sup>2</sup> )	5,169.83	295.96	—

(入院患者の受療動向)

- 入院患者の自域依存率は、4 機能区分とも 80%前後で高くなっています。また、県外からの流入も多くみられます。

<平成 25 年度の尾張北部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
尾張北部医療圏	高度急性期	63	*	*	23	*	288	*	*	*	*	0	*	*	374
		16.8%	—	—	6.1%	—	77.0%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	124	*	*	51	34	928	*	*	*	*	0	*	*	1,137
		10.9%	—	—	4.5%	3.0%	81.6%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	117	*	*	32	44	925	*	*	*	*	0	*	*	1,118
		10.5%	—	—	2.9%	3.9%	82.7%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	47	*	15	24	49	600	*	*	*	*	*	*	15	750	
	6.3%	—	2.0%	3.2%	6.5%	80.0%	—	—	—	—	—	—	2.0%	100.0%	

<平成 25 年度その他医療圏から尾張北部医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
尾張北部医療圏	高度急性期	16	*	19	*	14	288	*	*	*	*	*	*	337	
		4.7%	—	5.6%	—	4.2%	85.5%	—	—	—	—	—	—	100.0%	
	急性期	48	*	46	*	31	928	*	*	*	*	*	*	44	1,097
		4.4%	—	4.2%	—	2.8%	84.6%	—	—	—	—	—	—	4.0%	100.0%
	回復期	56	*	46	18	33	925	*	*	*	*	*	*	69	1,147
		4.9%	—	4.0%	1.6%	2.9%	80.6%	—	—	—	—	—	—	6.0%	100.0%
慢性期	84	*	25	11	35	600	14	13	*	13	*	*	127	922	
	9.1%	—	2.7%	1.2%	3.8%	65.1%	1.5%	1.4%	—	1.4%	—	—	13.8%	100.0%	

## ② 構想区域の課題

- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

## ③ 自施設の現状

- ・ 自施設の理念  
「私たちは、医療人としての倫理を守り、地域の皆さまから信頼され、心のふれあう医療を提供します。」
- ・ 自施設の診療実績  
地域一般入院料1、療養病棟入院基本料1  
一般病棟の平均在院日数24日
- ・ 自施設の職員数  
医師50名(非常勤含)、看護職員98名、専門職31名、事務職員21名
- ・ 自施設の特徴  
4 機能のうち急性期・慢性期機能が中心
- ・ 自施設の担う政策医療（5疾病・5事業及び在宅医療に関する事項）  
5 疾病については糖尿病医療、5 事業については救急医療を担う
- ・ 他機関との連携（周産期医療については他の医療機関との連携を前提に対応、等）  
等  
近隣の3次救急医療機関である、小牧市民病院や春日井市民病院と連携し、急性期医療を受け、容態が安定した患者の受入等を行っている。

## ④ 自施設の課題

- ・ 近隣に小牧ようてい記念病院が開設することから、現状の体制を維持すべきか否か、検討が必要
- ・ 急性期医療を受けた後の患者の後方支援を担う医療機関の整備に向けて、当院の役割の再検討が必要

## 【2. 今後の方針】

### ① 地域において今後担うべき役割

- ・ 急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関の整備
- ・ 地域における回復期機能の一翼を担う

### ② 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の急性期病棟は一定程度維持する必要があるが、規模の適正化を検討する
- ・ 地域包括ケア病棟の導入について検討する

### ③ その他見直すべき点

- ・ 医療機関全体として、病床利用率の上下が大きいことから、今後の医療需要の推移を加味して、最適な病床規模について検討する

【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	110		55
回復期			55
慢性期	60		60
(合計)	170		170

<（病棟機能の変更がある場合）具体的な方針及び整備計画>

- ・ 平成31年2月より病院建物の改築改修工事を行う。平成34年頃に工事完了予定であり、それに合わせて整備をしていく方針。
- ・ 高度急性期医療を受けた患者の受入体制を整備するため急性期病床110床の内、半分程度を地域包括ケア病床に変更する。

<年次スケジュール（記載イメージ）>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合意形成に向けた協議</li> <li>○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討</li> <li>○施設老朽化に伴う改築改修工事着工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自施設の今後の病床のあり方を決定（本プラン策定）</li> <li>○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る</li> </ul>	<p>集中的な検討を 2年間程度で 促進</p> <p>第7期 介護 保険 事業 計画</p> <p>第7次 医療 計画</p>
2019～2020 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な病床整備計画を策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2019年度中に整備計画策定</li> </ul>	
2021～2023 年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>○2022年度末までに ・ 竣工・新病棟稼働</li> </ul>	<p>第8期 介護 保険 事業 計画</p>

② 診療科の見直しについて  
見直しの予定無し

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 90%以上を目標とする
- ・ 手術室稼働率 未定
- ・ 紹介率 未定
- ・ 逆紹介率 未定

経営に関する項目\*

- ・ 人件費率 50%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 未定

その他

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。